

安城市内景況調査結果 (平成22年7月～12月)

〈 足踏み状態が続く中、依然として厳しい状況 〉

1. 調査対象 対象企業数 会議所役員・会員事業所 89企業
 2. 調査対象時期 平成22年7～9月期
 (1)前年同期(平成21年7～9月)と比べた今期の状況
 (2)今期と比べた来期(平成22年10～12月)の先行き見通し

3. 企業数内訳

	製造業	小売・卸業	建設業	サービス業	計
企業数	23	23	17	26	89
構成比	25.8%	25.8%	19.2%	29.2%	100%

	前年同期比 (前 回)	前年同期比 (今 回)	来期の 見通し
業況判断	△23.2	△30.3	△30.3
売上高	△25.8	△25.8	△27.0
売上単価	△42.2	△44.9	△34.8
資金繰り	△23.7	△24.7	△16.9
借入難度	3.2	△6.7	△9.0
収益状況	△31.7	△24.7	△24.7
雇用人員	5.1	1.1	9.0

安城市内の今期の業況判断DIは、前年同期と比較し△30.3ポイント、前回よりも△7.1ポイント下降した。

来期の業況判断DIは△30.3ポイントと前回よりもさらに△3.9ポイントと下降を見込んでおり、回復に向けた先行きは依然不透明な予想である。

【産業別の状況】

- ・製造業では、売上高が前年同期対比を4.3ポイント上回ったものの、売上単価が前回同様△52.5ポイントとかなり下回った。
- ・小売・卸業では、収益状況が全産業内でも最も下回り、前年同期比の△43.5ポイントとなり、売上単価も△43.5ポイントとなった。
- ・建設業では、業況判断・売上高・売上単価が前年同期対比の△40ポイント前後とかなり下回っているものの雇用人員は0ポイントと横ばいとなった。
- ・サービス業は、業況判断・売上単価・収益状況が、前年同期対比の△40ポイント前後とかなり下回ったが、雇用人員は11.5ポイントとなり唯一プラスとなった。

凡例▶ 30以上 10を超える 10～△10 △10を超える △30以上

		全 産 業									
		製 造 業		小 売 ・ 卸 業		建 設 業		サ ー ビ ス 業			
前 年 同 期 対 比	業 況 判 断	△30.3		0.0		△39.1		△41.2		△42.3	
	売 上 高	△25.8		4.3		△30.4		△41.2		△38.5	
	売 上 単 価	△44.9		△52.2		△43.5		△35.3		△46.2	
	資 金 繰 り	△24.7		△21.7		△26.1		△41.2		△15.4	
	借 入 難 度	△6.7		△4.3		0.0		△5.9		△15.4	
	収 益 状 況	△24.7		△8.7		△43.5		△23.5		△23.1	
	雇 用 人 員	1.1		△4.3		△4.3		0.0		11.5	
来 期 の 見 通 し	業 況 判 断	△30.3		△30.4		△34.8		△23.5		△30.8	
	売 上 高	△27.0		△43.5		△17.4		△23.5		△23.1	
	売 上 単 価	△34.8		△47.8		△26.1		△29.4		△34.6	
	資 金 繰 り	△16.9		△17.4		△13.0		△11.8		△23.1	
	借 入 難 度	△9.0		△8.7		4.3		△5.9		△23.1	
	収 益 状 況	△24.7		△21.7		△21.7		△17.6		△34.6	
	雇 用 人 員	9.0		13.0		△4.3		17.6		11.5	

※DIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(好転、やや好転)した企業割合から、「減少」(やや悪化、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上で「増加」25%、「不変」60%、「減少」15%の場合のDIは、25-15=10となる。

今後も、四半期ごとに景況調査を実施いたしますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

なお、詳しい指標は、当所ホームページの「景況調査」のページをご覧ください。